

4. 圏域別(大崎・栗原圏域)

(1)位置・地勢

当該圏域は県の北側に位置しており、栗原市、大崎市、加美町、色麻町、美里町、涌谷町の2市4町から構成される。

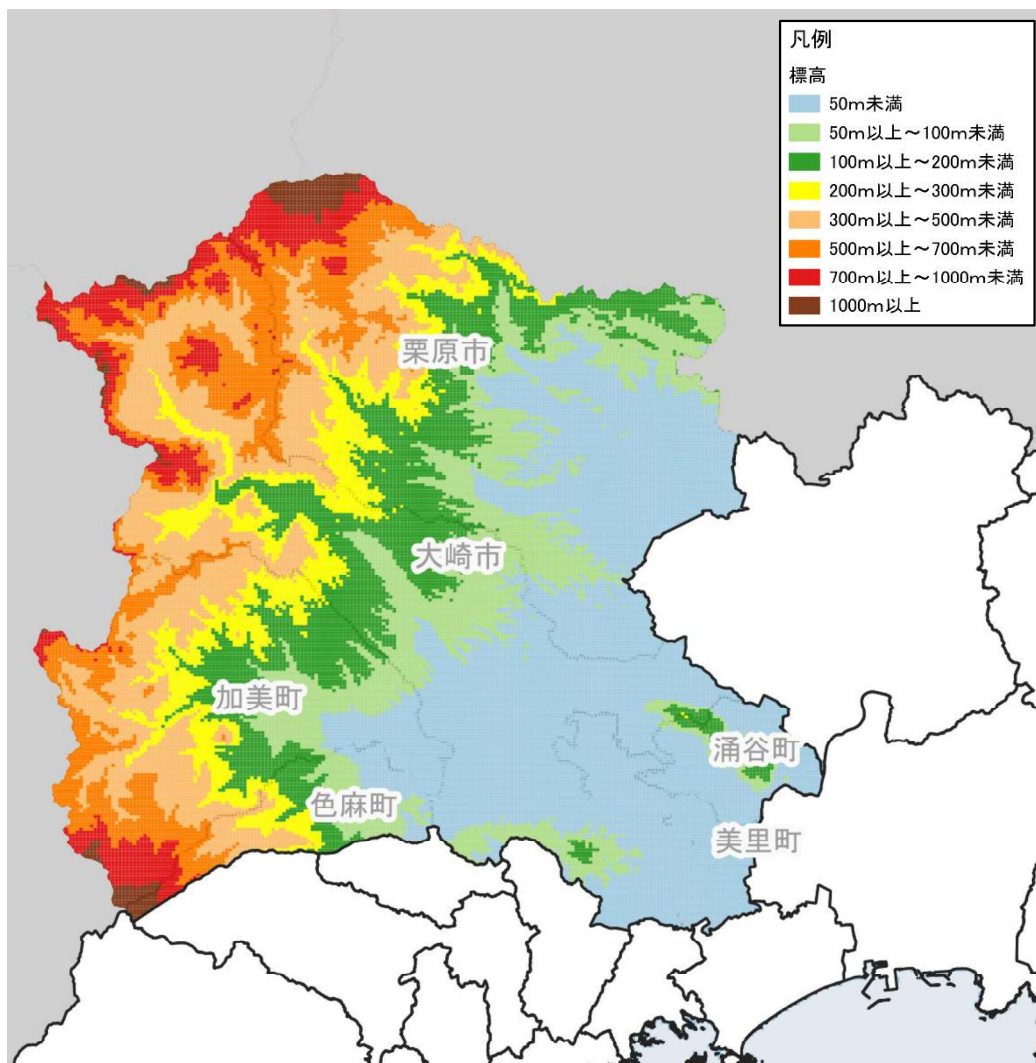


図 圏域の位置、地勢

出典：国土数値情報

(2)人口の推移等

当該圏域の人口は平成2年から令和2年まで減少傾向にある。今後も継続して減少する見込みであり、令和12年には224千人となることが予測される。

一方、高齢化率は増加傾向にあり、令和12年には39.1%と令和2年から4.5ポイント増加する見込みである。

県内外の転入、転出者数はほぼ横ばいで推移しているが、毎年一貫して転出者数が転入者数を上回っており、社会増減数は全ての年度でマイナスとなっている。

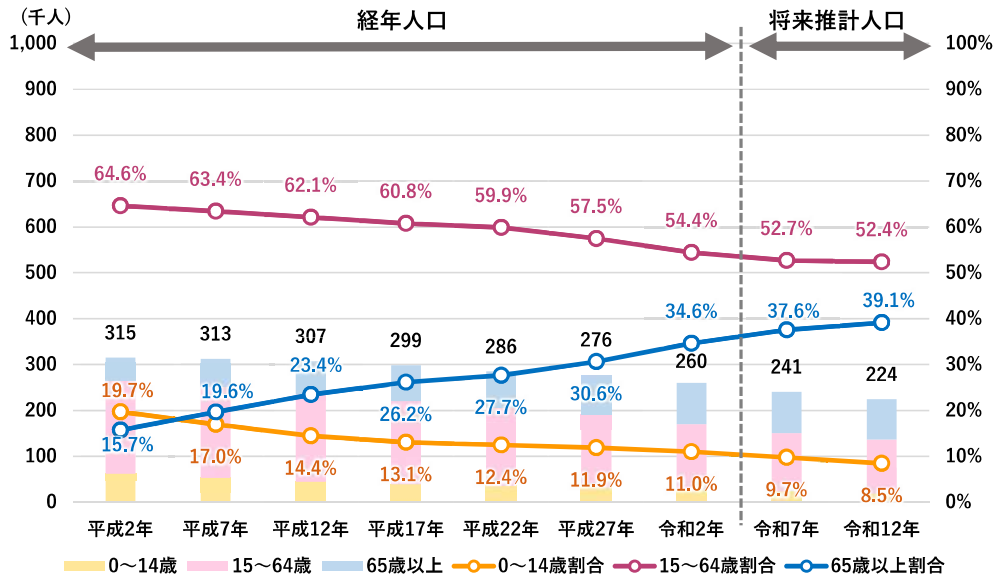


図 当該圏域の人口推移

※平成2年～平成22年では総数のみ「年齢不詳人口」を含む
 出典：国勢調査 男女別人口及び年齢別割合 第6表（平成2年～令和2年）
 国立社会保障・人口問題研究所
 日本の地域別将来推計人口（令和5年推計）



図 当該圏域の社会増減の推移

※転入・転出者数の総数には「職権記載・その他」を含む
 出典：国勢調査 推計人口年報 第1表（令和3年～令和6年）

(3)流動等

1)通勤・通学流動

通勤流動は、栗原市（76.7%）、大崎市（69.5%）、加美町（62.8%）で半数以上の人口が自市町内で移動している。

通学流動は、栗原市（59.6%）、大崎市（59.9%）で半数以上の人口が自市内で移動している。

近隣市町村も含めた市町村間の通勤通学移動量について、大崎市から仙台市へ5,000人以上が移動している。さらには加美町、美里町へ2,000人以上、栗原市、涌谷町、大和町、大衡村へ1,000人以上が移動している。一方で大崎市へも美里町から3,000人以上、仙台市、栗原市、加美町から2,000人以上、登米市、涌谷町から1,000人以上が移動している。

表 通勤、通学流動量合計(令和2年)

移動量（通勤+通学） 単位：人

通勤・通学先一 居住地↓	大崎・栗原圏域						近隣市町村							その他			
	栗原市	大崎市	色麻町	加美町	涌谷町	美里町	大和町	大郷町	大衡村	石巻市	東松島市	南三陸町	登米市	仙台市	富谷市	一関市	
大崎・栗原圏域	栗原市	26,139	2,197	24	84	79	176	73	10	70	133	26	25	1,817	1,061	29	1,057
	大崎市	1,757	47,375	568	2,139	1,011	2,196	1,554	435	1,450	969	232	15	744	5,199	427	
	色麻町	13	569	1,763	612	11	19	220	20	176	17	1	1	7	245	58	
	加美町	74	2,491	577	7,813	26	64	380	34	340	45	10	3	26	552	104	
	涌谷町	75	1,282	17	34	3,994	615	89	44	50	827	114	9	354	478	19	
	美里町	199	3,156	26	84	678	4,980	221	135	133	621	171	9	209	1,193	59	
近隣市町村	大和町	18	504	81	108	9	24	7,101	210	1,257	85	18	3	10	3,921	1,256	
	大郷町	9	191	6	17	9	19	417	1,694	126	37	23		5	696	143	
	大衡村	10	186	26	41	5	10	630	41	1,272	7	2		1	465	162	
	石巻市	69	600	9	8	493	279	143	88	51	55,849	3,141	122	751	2,987	62	
	東松島市	21	307	4	7	100	123	105	104	39	6,732	8,700	19	121	1,669	38	
	南三陸町	20	26	1	1	2	1	3			174	11	5,000	425	84	3	
	登米市	2,361	1,273	8	17	386	200	51	30	40	1,742	131	633	31,024	1,149	38	
その他	仙台市	369	2,260	93	198	88	227	5,339	450	1,457	1,775	351	49	272	481,024	5,702	
	富谷市	44	557	56	70	24	41	2,574	179	826	148	44	4	29	13,535	8,106	
	一関市	891	85		5	5	7	7	1	5	32	10	18	472	304	6	52,752

出典：出典：国勢調査 従業地・通学地による人口・就業状態等集計 第3表（令和2年）

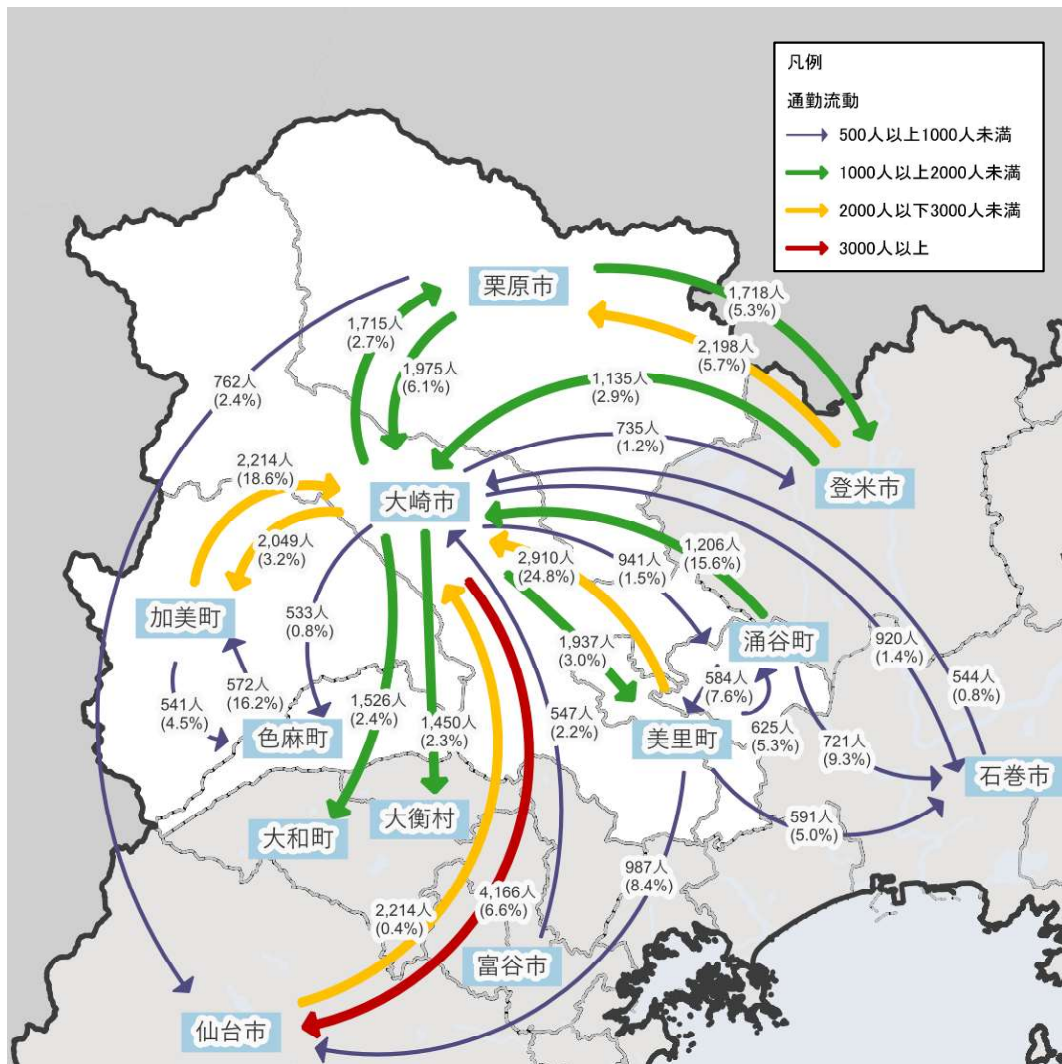


図 通勤流動(令和2年)

出典：国勢調査 従業地・通学地による人口・就業状態等集計 第3表(令和2年)
 ※500人未満非表示
 ただし各市町村における最大値については表示

2)通勤・通学時の移動手段

当該圏域の通勤、通学時の移動手段は、自家用車が79.7%と最も高く、次いで徒歩・自転車が9.9%と続いている。公共交通が7.7%（乗合バス等（2.1%）、鉄道（5.6%））を占め、公共交通の分担率が最も高い仙台圏域（28.8%）と21.1ポイントの差がある。

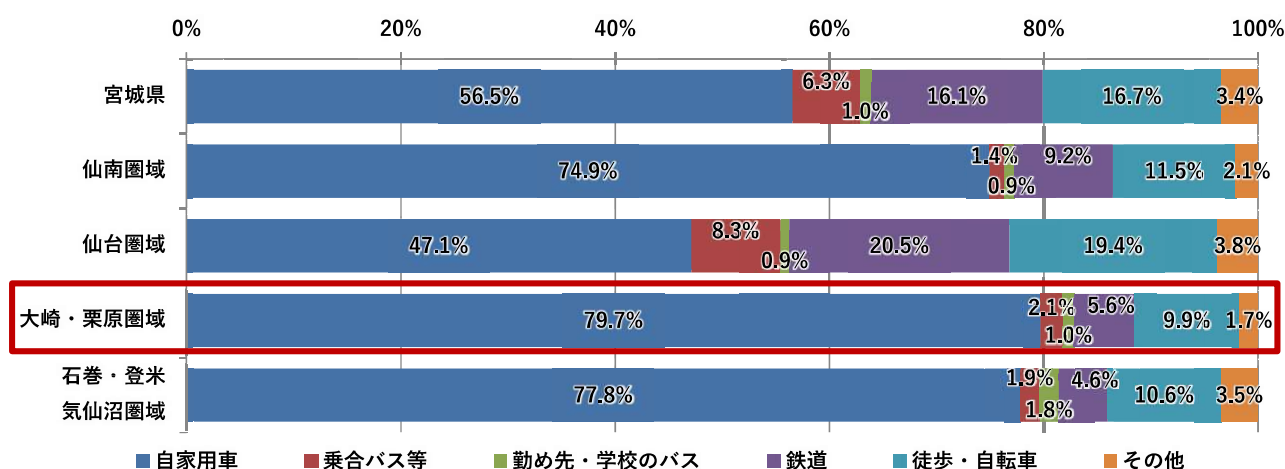


図 通勤、通学時の移動手段(令和2年)

出典：国勢調査 従業地・通学地による人口・就業状態等集計 第18表（令和2年）

3) 買い物流動(最寄り品)

市町村間をまたぐ買い物流動は、大崎市に集まる傾向がある。一方で、色麻町は周辺の自治体に移動が分散する傾向がある。

市町村間をまたぐ買い物流動の傾向が強いのは、色麻町から加美町への移動(62.1%)となっている。

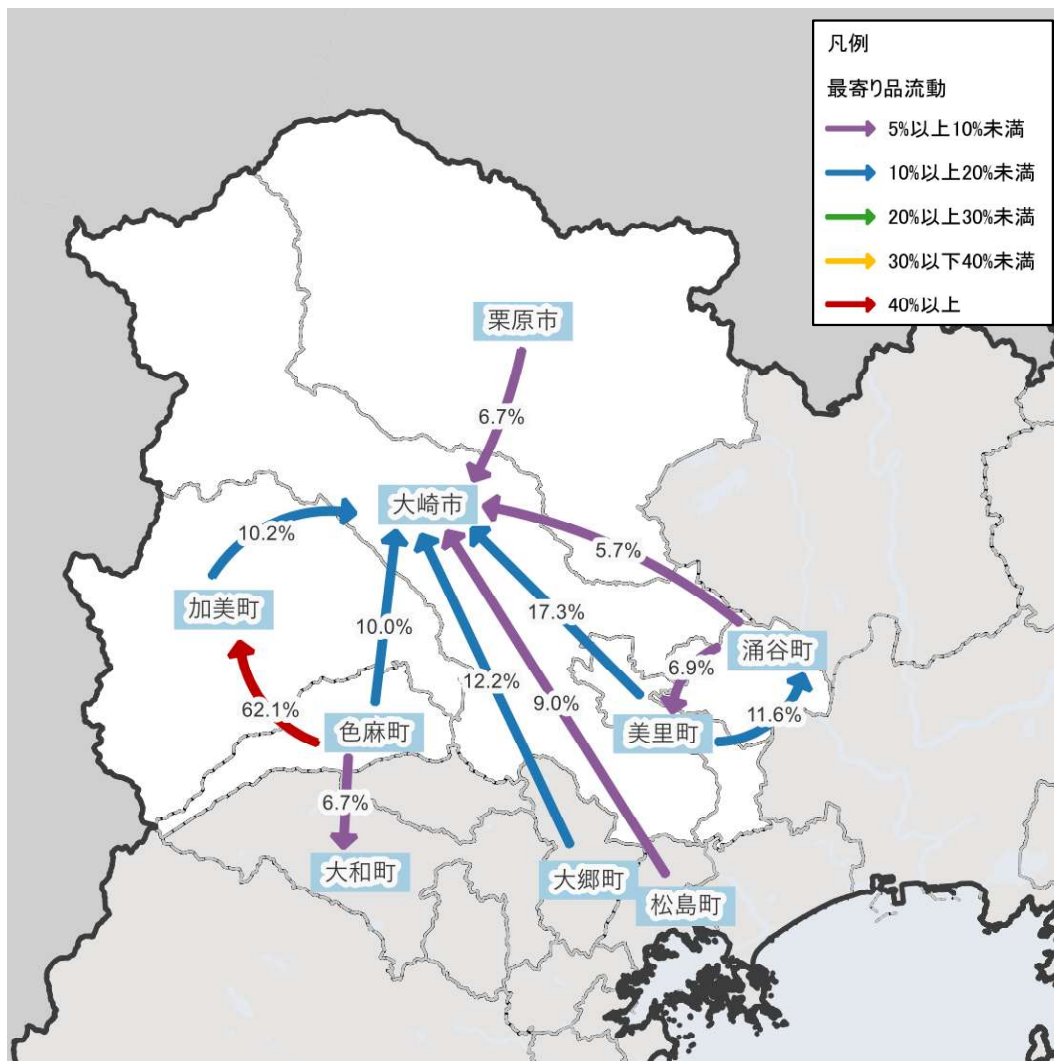


図 買い物流動(最寄り品、令和3年度)

出典：消費購買動向調査(令和3年度)

※5%未満の流動は非表示

※図中の割合は消費購買動向調査(サンプル調査)の回答者を母数としており、
該当市町村の総人口を母数とするものではない点に留意

4) 観光入り込み客数

施設利用者数は、鳴子温泉で50～100万人となっているほか、いわかがみ平（栗駒山）や中山平温泉で10～50万人の施設利用がみられる。

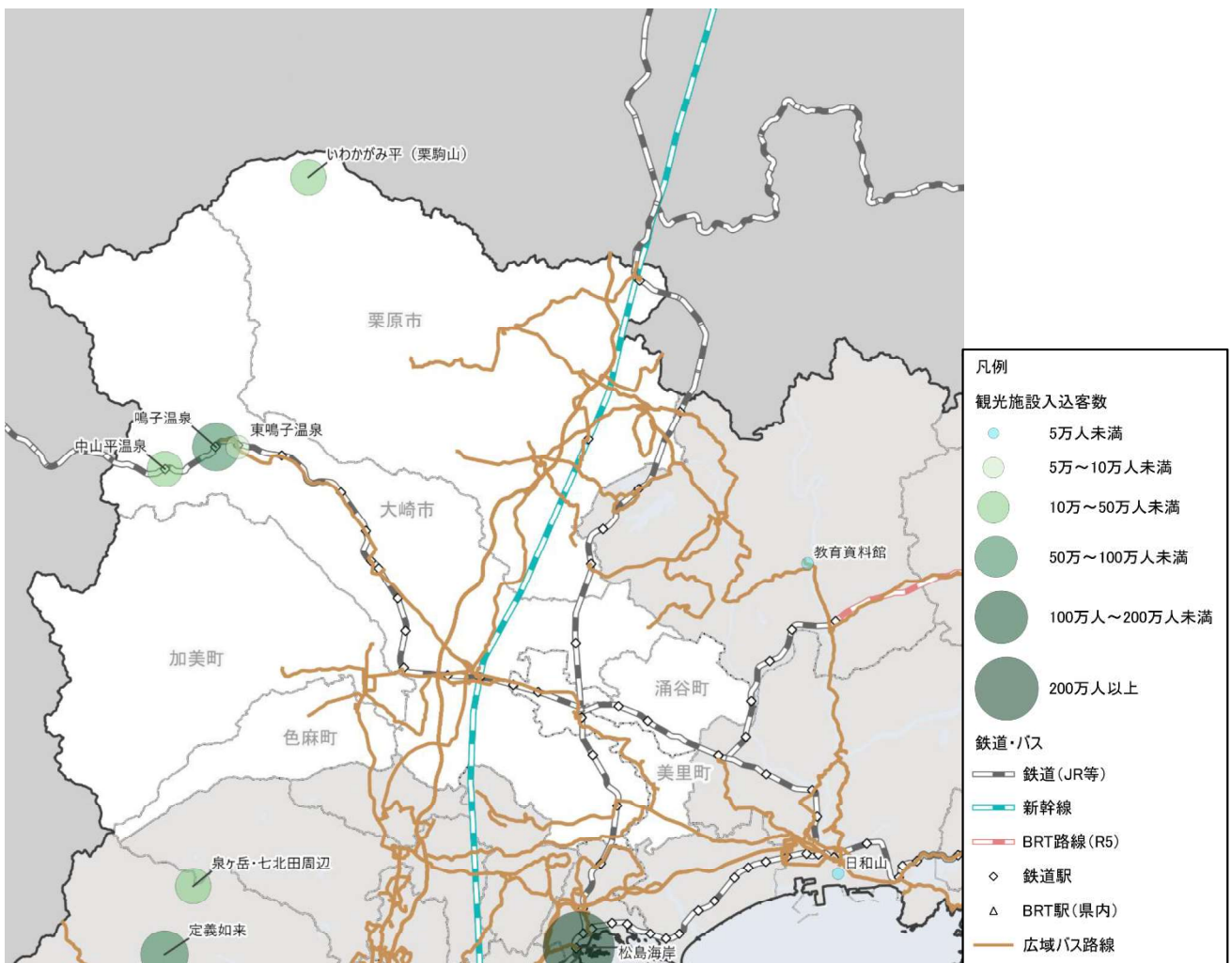


図 施設利用者数(令和5年)

出典：宮城県観光統計概要 表8 (令和5年)